

コンコーネ 15 番の歌唱法

田 中 千 義

A Singing Method for Concone No.15

Chiyoshi TANAKA

(Received September 1, 1997)

はじめに

このコンコーネ 15 番は、50 番と 25 番を学んだ後更に高度な技術を学ぶためのものである。音域の広さ、和音の変化、テンポの変化、音の早い動き、曲の長さ等学習者には学ぶべき多くの事がある。少しずつ学習して着実に声楽技術を身に付けてもらいたい。近年コンコーネを軽視して学習する者が少ない。敢えてこの曲集の解説をする。楽譜は中低声用を用いた。

1 歌い出しは落ち着いておだやかに。15 小節目のアクセントは軽く付ける。26 小節目からは練習の初期にはゆっくりと音を正確に取って歌う。29・33 小節目の下行する分散和音は多く練習する。42・45 小節目の上行する分散和音は、少しの練習で征服出来よう。上行は下行より容易であろう。46 小節目の音階は嬰ト音に気を付ける。ダ・カーポがあり曲が長いので声が疲れないように、やさしいところは流すように気軽に歌ってスタミナの配分に気を付ける。

2 30 小節目の 16 分音符を、特に 4 拍目に気を付けて多く練習する。50 小節目のニ音は急に低い声になるので、声のコントロールに注意しながら多く練習する。58 小節目のヘ音は前頭部に声をよく響かせるように歌う。又息が長いので横隔膜の支えを大事に歌う。

3 優雅に歌い始め 6・7 小節目を少しゆっくり練習し、各音を確実に歌えるようにする。27 小節目から 30 小節目の 3 拍目前半迄息が長く要る。28 小節目の 1 拍目の高い音は大きく歌い後 dim. する。31・32 小節目の 16 分音符は連続するので注意して音取りを確実にする。50・59 小節目のオクターブは、コンコーネ 50 番の No.42 を思い出しながら横隔膜の保持に注意して声のヘ音への上昇をなめらかに行う。52 小節目の 16 分音符は p で正確に歌えるように練習する。53 小節目からのアクセントは軽く付ける。63 小節目から終り迄は力強く歌う。最後の口音が 5 拍なので息切れしないように息をよく保って歌う。

4 先ず 8 分の 9 拍子のリズム感をよく捉えてしなやかな感じに歌う。16 小節目嬰ト音はフレーズの終りなので、息が不足して弱い声にならないように注意する。20 小節目も同じ音であるが、音が長いので更によく練習する。74 小節目の嬰ト音、75 小節目の嬰ト音の低い音から 2 オクターブ高い音は、声区の転換に注意して横隔膜での呼気をよく保持して歌う。

5 最初の小節の伴奏のリズムに乗ってゆったりと歌っていく。23小節目の $\dot{\text{ハ}}$ 音を24小節目迄自然に *cresc.* 出来るようにここだけ多く練習する。33小節目スケルツァンドでスタッカート音は軽く切って歌う。35小節目のオクターブも軽く歌えるように練習する。ダ・カーポで122小節となるのでスタミナの配分に注意して声が疲れないように工夫して歌う。

6 p や pp の指示が多いのでよく注意してやわらかくなめらかに歌う。25小節目からはカデンツで32分音符4ヶ連続の3ヶ所は咽喉をやや楽にしかし横隔膜の支えは確実に保って素速く歌う。26小節目は伴奏が無いのでフレーズの初めの音だけピアノで確かめながら練習する。27・28・29小節目の6連符は *ma* や *mi* で歌い音を正確に取る。34・36小節目も同様に練習する。41小節目は声のバランスに注意しながら声区の転換を練習する。

7 テンポが速いので9から11小節目の16分音符の音が、正確に取れているか確かめながら練習する。16小節目から20小節目まで伴奏音が無いので注意して多く練習する。特に $\dot{\text{ト}}$ 音はアクセントを5回も付けて歌うので、力み過ぎて声が上がらないように注意する。29小節目からの短2度のトリルの練習音は *f* のところで咽喉に力を入れ過ぎないように注意する。又 *p* のところで声が弱過ぎてふらついて音が不正確にならないように。全曲通して軽快に歌えて楽しめるとうい。

8 8分の6拍子のリズム感を大事に少し早めのテンポ *amabile* 優しく歌う。33小節目から37小節目迄の16分音符は難しいので、初めはゆっくり *ma* や *me* で音をよく取りながら歌い、後徐々にテンポを上げて練習する。42・43・44小節目は伴奏が無いので慎重に歌う。69小節目から終り迄は声の響きに注意しながら声区の転換をよく練習する。

9 前の曲と同じ8分の6拍子であるが、この曲は少しゆっくり歌う。9小節目4拍目の9度上の音を取る時は、下の変口音を歌いながら上の $\dot{\text{ハ}}$ 音の音を出す準備をしておく。声の質があまり変わらないように注意しながら練習する。23・24小節目の *tr* は8番の短2度の16分音符の練習を思い出して歌う。又1拍目と4拍目の $\dot{\text{ニ}}$ 音と変 $\dot{\text{ホ}}$ 音のスタッカーティッシモを正確に歌えるように練習する。25小節目は速く歌うと3連符の中の変 $\dot{\text{ニ}}$ 音から $\dot{\text{ハ}}$ 音、 $\dot{\text{ハ}}$ 音から嬰 $\dot{\text{イ}}$ 音、変 $\dot{\text{イ}}$ 音から $\dot{\text{ヘ}}$ 音への音の取り方が少し難しいので、ゆっくりしたテンポから練習していく。30小節目後半から32小節目迄のカデンツは伴奏が無いので、各ブレス記号毎にピアノで音を確かめながら練習する。特に32分音符の連続は多く練習する。39小節目は高音から低音への声の響きのなめらかな移行を練習する。

10 3連符を速く歌うので音が不正確になり易い。*na* や *no* で初めはゆっくり音取りをする。音を覚えたら少しずつ速いテンポにして歌う。35小節目のブレスは後では省いて37小節目迄続けて歌う。44・45小節目は難しい。この2小節は多く練習しなければならない。嬰 $\dot{\text{ヘ}}$ 音から嬰 $\dot{\text{ニ}}$ 音、嬰 $\dot{\text{ニ}}$ 音から $\dot{\text{ヘ}}$ 音、 $\dot{\text{ヘ}}$ 音から $\dot{\text{ニ}}$ 音、 $\dot{\text{ニ}}$ 音から $\dot{\text{ホ}}$ 音、 $\dot{\text{ホ}}$ 音から嬰 $\dot{\text{ハ}}$ 音、嬰 $\dot{\text{ハ}}$ 音から嬰 $\dot{\text{ヘ}}$ 音の取り方をよく練習する。これらの音は伴奏の右手に出ているので、自分でピアノを弾きながら歌う。

11 長い曲なので歌い出す前からよく自覚して声の持久力を考えておく。25小節目迄はゆったりとテンポを取り流すように歌う。カデンツの26小節目の $\dot{\text{ト}}$ 音は、のびやかに歌った後 $\dot{\text{ハ}}$ 音迄徐々に胸声にもっていく。声の低い方に自然に響きを変えていくように。又伴奏が無いので音が正確

であるように、歌いながらハ音、ト音、ホ音、ハ音、終りのホ音をピアノで確かめる。27小節目から Moderato で軽快にスタッカート、アクセントを付けて歌う。35小節目の10度の下降は下の変口音にアクセントが付いている。急な胸声でこれを歌うので強過ぎないように注意する。この曲も105小節あり長い曲なので、声が疲れないように工夫して歌う。

12 ゆったりしたテンポで感情を込めて歌う。32分音符4ヶのところは速く歌うので音が不正確にならないように多く練習する。14小節目1拍目3連符の2番目の音イ音は伴奏の変口音と短2度で歌いにくい。自分で伴奏の変口音と変ニ音をピアノで弾きながら歌い練習する。この小節の4拍目3連符の2・3番目の音も伴奏の右手の音と長2度で少し歌いにくいので、これも自分で伴奏を弾きながら歌い練習する。20小節目のtrは短2度で歌い易いが22小節目のtrは長2度なので歌いにくい。咽喉の柔軟な動きをよく意識して練習する。28小節目3拍目の9度は、急に高音を取るので声区の転換をよく注意して歌う。アクセント付きなので練習し易いと思う。30小節目も高く又低く歌うので多く練習する。特に3拍目は拍の後半の音が高いので強くなりがちだが、気を付けて前半が強くなるように歌う。

13 活気をもって歌う。歌ううちにますます楽しくなる曲である。速いテンポで歌うので音が不正確にならないように注意する。28小節目のト音はレガートに歌う。1拍目の初めのト音にアクセントを軽く付けた後柔らかく下降してト音を歌う。アクセントを付けた勢いであまり強く押し付けたように歌ってはいけない。レガートでなくなるので気を付ける。40小節目のホ音は柔らかいfからdim.して軽くポルタメントをかけながらホ音に下降する。57小節目からは軽快にピアノを弾き、59小節目からはピアノの音ヘエコーのように答えるように軽く歌う。80小節目からは力強く1音ずつ丁寧に歌う。

14 ホ短調で始まるが、6小節目から9小節目迄口長調で読む。短調の感じを出すように感情を込めて歌う。カデンツの22小節目は音がほぼ取れるようになったら、フェルマータの後のプレスは省いて一息で歌う。又おだやかな感じにゆったり歌う。23小節目からは決然と思い切って歯切れよく歌う。29小節目の16分音符の下降は勢いよく、又4拍目の初めの音にはアクセントを付けて、はなやかな感じに歌う。35小節目からは次第にfでアクセントを拍の初めに付けて歌う。39小節目からの16分音符の連続は、ma や mi 等で音をよく取る練習をしてから母音で歌う。46小節目から49小節目迄の各小節の4拍目は、伴奏右手の音と長2度短2度で歌わねばならない。自分で和音を弾きながら音を取る練習をする。ぶつかる音はホ音と嬰ニ音、嬰ヘ音とホ音、嬰ト音と嬰ヘ音、イ音と嬰ト音である。終り4小節は横隔膜をよく支え力強く歌う。

15 前奏5小節でこの曲の持ち味である力のこもった短調の感じをよく感じ取り歌い出す。30小節目の Poco meno mosso からは少し遅くして軽く優しくなめらかに歌う。ここは長調の感じがよく出るように声を明るく歌う。47小節目から又初めの旋律になるので、再び短調の感じをよく出して歌わねばならない。スケルツォの感じがよく出るように歌えねばならない。15番練習曲の最後の曲らしくたしかなテクニックで曲想をよく表し自信を持って歌いたい。

おわりに

コンコーネ 50 番 (1992), 25 番 (1996), 15 番 (1997) の各調の読譜, 各音型の歌い方, 強弱の方法, 声区の転換, 呼吸法, 曲想を, 特に 15 番に於いてはカデンツの練習法を解説した。学習した後もふり返って要所部分を取り出して技術の向上に使いたい。

参 考 文 献

- 1) 城多又兵衛, コンコーネ 15 番と 30 番基礎練習, 中声用, 1970, 音楽之友社.
- 2) 畑中良輔, コンコーネ 15 番, 中低声用 1971, 全音楽譜出版社.